

広報119

2010秋号 vol.10



地域の防災はみんなの力で!

9月12日一関市総合体育館西側の多目的広場で、「消防フェスタいちのせき」を開催しました。

一日消防官に岩手県を中心にテレビ・ラジオで活躍されているふじポンさんを迎え、多くの方々が来場し、放水・消火、応急手当やはしご車搭乗などを体験しました。

おらほの自主防災会紹介

地域ぐるみの防火・防災体制を構築

千厩町新町自治会

千厩町新町自治会（千田恭平会長）は、昭和六十三年七月に自主防災組織を結成し、消防団との連携を図りながら、総合的な訓練を自ら企画し継続的に行っています。

訓練は、消火器やバケツリレーでの初期消火訓練、女性部による炊出し訓練等を実施し、多くの住民が参加することで災害対応力を高めるとともに地域の団結力の強化を図っています。平成十三年からは、地域内の老人福祉施設とも災害時の協力応援体制を構築し、避難誘導訓練などを行っています。



「防火夜回り」は20年目を迎えました。

また、女性部が中心となり平成三年から毎週火曜日に「防火夜回り」を実施しています。

今後も地域ぐるみの活動を、継続して展開していきます。

防災マップ作りに向け危険箇所を確認

大東町猿沢地区自治会

九月十一日、大東町猿沢地区の自治会の皆さんが集まり、大東農村環境改善センターを会場に、大雨災害を想定した災害图上訓練を行いました。当日は約五十名が集まり、各自治会ごとに地域内の土砂崩れや浸水危険箇所、避難場所などを確認しました。



自分たちの住んでいる地域の地図を囲み危険箇所などについて確認しました。

今年度同地区では、いちのせき元氣な地域づくり事業を活用して、地区の防災マップ作成に取り組んでおり、今回の訓練で確認した情報を基に、今後防災マップを作成し、各戸へ配布する予定になっています。

局所的な大雨と地震について正しい知識と対策を学ぶ

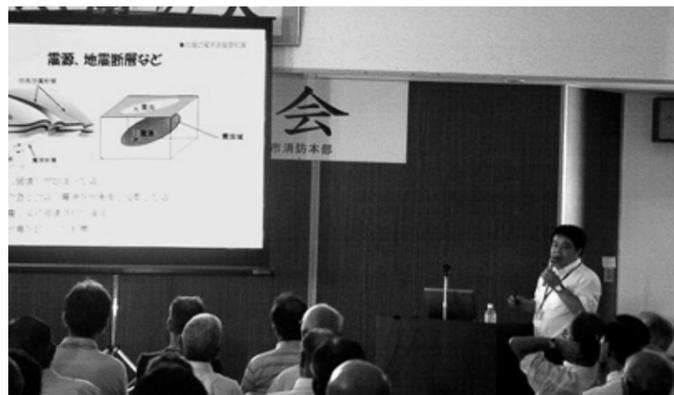
一関市総合防災センターで防災講演会を開催

この講演会は、NPO法人防災サポートいちのせきと一関市消防本部が共催で、正しい防災への知識と対策について学び、地域防災力の向上を図ることを目的に、九月四日に開催しました。

自主防災組織などから約百五十人の皆さんが集まり、盛岡地方気象台の藤井政志予報官から「局所的な大雨に対する知識及び対策」について、また、藤原政志地震津波防災官から「宮城県沖地震を含む最近の当地方に影響のある地震の状況と対策」について、講演がありました。

藤井予報官は、「最近では狭い範囲に短時間で集中的に降る雨が多く、一般的な低気圧による雨と違い、発生予測が難しく、また短時間に大きな被害をもたらすので、自分たちの地域の気象の変化に注意して対応してほしい。」と話しました。

また、藤原地震津波防災官は、「想定される宮城県沖地震は平均で三十七年周期で発生しており、前回の地震からすでに三十二年が経過している。日頃から地震に備え、もし宮城県沖を震源とする地震が発生した際は、両磐地域へ地震波が到達するのに、緊急地震速報が発表されてから十〜十五秒の



藤原地震津波防災官は「地震ではまず身の安全の確保が大切」と話しました。

猶予時間があるので、まず身を守るようにしてほしい。」と話しました。

参加者の皆さんは、熱心に講演を聴き、災害に対する心構えを新たにしました。

発行日 ●平成22年10月25日
編集 ●一関市消防本部
〒021-0053
岩手県一関市山目字中野140-3
TEL (0191) 25-0119

今後の行事予定

11月 6日	防火ポスター表彰式	1月 26日	文化財防火デー
7日	災害救護研修会(東山会場)	2月 5日	危険物取扱者試験
9日~15日	秋季全国火災予防運動	下旬	優良自主防災組織等表彰式
13日	災害救護研修会(川崎会場)	3月 1日~7日	春季全国火災予防運動
1月 15日~21日	防災とボランティア週間		

一関市消防本部のホームページURL

<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/syobo/index.html>

火災など災害情報の問合せ

TEL 0180-991199

平成二十二年秋季全国火災予防運動

十二月九日から
十五日まで

優秀賞

火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の普及と、火災発生予防、また高齢者等の火災による死傷者の減少を目的に、火災予防運動を全国一斉に実施します。

一 関市消防本部では、次に掲げる項目を重点に運動を展開しますので、ご理解とご協力をお願いします。

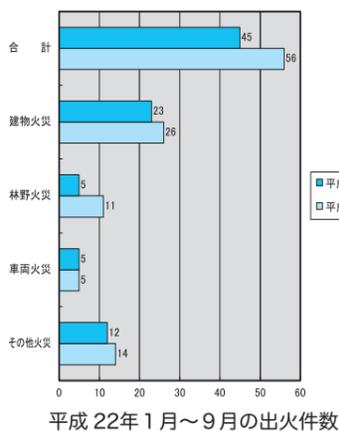
一 住宅防火対策の推進
特に、住宅用火災警報器の設置を推進するため、効果的な施策を行います。

二 特定防火対象物等における防火安全対策の推進
特に、高齢者等が多数入居する小規模福祉施設においては、ひとたび火災が発生すれば入居者を避難させるまで時間を要することから、関係行政機関と連携し安全対策の推進を図ります。

【四つの対策】
○逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
○寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
○火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
○お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

火災から身を守るため、次の点に注意しましょう。
『住宅防火 いのちを守る 七つのポイント』

- 【三つの習慣】
- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。



平成二十二年一月から九月の火災の状況
一関市消防本部管内の総出火件数は四十五件で、前年同期に比べ十一件減少しています。

防火ポスター入賞者発表



消防長賞
一関市立清田小学校
4年生
三浦 颯太さん



市長賞
藤沢町立新沼小学校
4年生
時田 翠さん



市長賞
一関市立猿沢小学校
4年生
菊池 笑さん

佳作入賞者八十名の発表については、省略させていただきます。(消防本部ホームページに全入賞者名を掲載しています)
佳作以上の作品は、十一月六日(土)から十五日(月)までいわて生協コープ一関コルザに展示しますので、お誘いあわせの上ご覧ください。

- 一関市立一関小学校 四年生 金森 龍平さん
- 一関市立大原小学校 四年生 菅原 夏美さん
- 一関市立興田小学校 四年生 千葉優美佳さん
- 一関市立曾慶小学校 三年生 小山 弘樹さん
- 一関市立千厩小学校 四年生 千葉 愛さん
- 一関市立室根東小学校 四年生 加藤 俊樹さん
- 一関市立門崎小学校 四年生 昆野 千春さん
- 平泉町立平泉小学校 四年生 阿部 渉さん
- 平泉町立長島小学校 四年生 阿部 廉さん
- 藤沢町立藤沢小学校 四年生 伊勢 碧さん

応急手当の技術を競う

レッツトライ！ 応急手当コンテスト

九月十一日に、一関地域救急医療委員会主催の「レッツトライ！ 応急手当コンテスト」が、一関市総合体育館サブアリーナで開催されました。

このコンテストは、応急手当の方法を広く普及し、その技術の向上を図るため、救急医療週間に合わせて平成十六年から隔年で行われているものです。



力を合わせて応急手当を行い、応急担架で搬送しました。

当日は一関市、平泉町及び藤沢町の高校や事業所、自主防災組織等から四十五チーム百十四名が参加しました。競技は二人一組で心肺蘇生法を行

う「AED心肺蘇生法競技」と四人一組で身近にあるものを使って応急手当を行う「災害想定応急手当競技」の二部門で、その正確さと敏速さを競いました。

どのチームもコンテストに備えて練習をしてきた成果を十分出そうと、真剣に取り組んでいました。審査の結果は次の通りです。

AED心肺蘇生法競技

最優秀賞 花泉高校A、平泉町婦人消防協力隊ゆり組、川崎寿松会
優秀賞 花泉高校B、一関二高、東山町婦人消防協力隊、花泉町婦人消防協力隊、大船渡ヤクルト販売あじさいセンター、平泉ドライブインダグス

医師会長賞 一関十七民区自主防災会、(株)大昌電子

災害想定応急手当競技

最優秀賞 花泉高校D、花泉町婦人消防協力隊、(株)シンコーロードサービス
優秀賞 花泉高校C、寺崎前自主防災組織、平泉町婦人消防協力隊ばら組、ヤクルト花泉センター、藤沢保育園

医師会長賞 一関地域婦人消防協力隊

シリーズ第十回

子供の命を守るために

県立磐井病院 救急医療科長 片山 貴晶

そろそろ寒くなる季節が近づいてきました。子供のやけどが増加する時季です。以前子供の事故防止や手当ての中でもお話ししましたが、今回は予防策と手当てをまとめてお話しします。
冬は子供のやけどが多い季節です。子供のやけどは平成十四年の十一月から三月に磐井病院をけがで受診した子供の十三%を占めています。それ以外の季節では六%ですから、明らかに寒い季節に多いことがわかります。原因はストーブ・ファンヒーターやポットのお湯などによるものが圧倒的に多く、後を絶ちません。また蒸気式の加湿器や味噌汁・熱いお茶などによるものも多くあります。子供をストーブや加湿器に近づけたり遊ばせたりしないのは当然ですが、柵で囲ってしまう方がより安全です。安価なものですからぜひ準備しましょう。ポットは置かないのが一番ですが、やむを得ず室内に置く場合は絶対に子供の手が届かず、かつ何かの拍子に子供の近くに落ちないところに置きましょう。またポットの操作や熱いものを扱うとき、周囲に子供がいなくても何度か確認してから行いましょう。ここまでしていても、子供の行動は予期せぬことが

多く防ぎきれないのです。さらに冬は鍋やホットプレートに子供が手を入れたり、触ってしまう事故も多く見受けられます。子供のやけどは同じ家庭で繰り返す場合も多く、これは子供に非はなく親の責任です。
さて、いざやけどをしてしまったらどうしましょうか。やけどをしたら、できるだけ早く十五℃程度の冷水(春秋の水道水の温度、井戸水など)で冷やし、少なくとも痛みを訴えが和らぐまで続けましょう。冷やすことは、組織の損傷を減らし、痛みを和らげる効果があります。水や氷水での冷却は十分以内くらいの短い時間であれば効果も期待できますが、これ以上長かったり、やけどの面積が広い場合には逆効果で体温も低下する可能性もありお勧めしません。水疱があれば滅菌包帯やガーゼなどで軽く覆ってください。決して破いたりしてはいけません。そのうえで医療機関を受診してください。



火傷を防ぐため、子供の行動には注意しましょう。